

日 時
授業場

児 童 3年生
授業者

1. 単元名 地いきの安全を守る ～火事からまちを守る～

2. 単元観・児童観・指導観

本単元は、小学校学習指導要領解説社会科編の第3学年の内容（3）を扱った単元である。地域の安全を守る消防署などの関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることや、関係機関が相互に連携して緊急に対処する態勢をとっていること、また、その活動に従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解し、自分たちも地域社会の一員として協力できることに取り組もうとする態度を育てることをねらいとしている。

本学級の児童は、前単元までに問題解決のためにまち探検や聞き取り（質問）などの調査活動に取り組んできている。「まちの様子」では、建物の種類や数、土地の様子、交通や人の量等に着目しながら学校のまわりを探検し、地域の特徴をまとめる活動を行った。「店ではたらく人と仕事」「農家の仕事」では、「スーパーマーケットで買い物する人が多い理由は？」や「農家の人はどうやって大量の野菜を育てているのだろうか？」といった疑問を明らかにするために教科書・副読本「くしろ」・図書資料を用いて調べたり、スーパーマーケットの店員の方に聞き取り調査（質問）を行ったりしながら必要な情報を集め、課題に対する自分なりの考えをまとめる活動を行ってきた。話し合い活動では、友達の発言を基に意見をまとめたり関連付けたりする児童も少しずつ増えているが個人差がみられる。

指導にあたっては、消防などの関係機関の取組に関心を持ち、火事などの災害を防ぐ取組や119番などの仕組みについて消防士の方などにインタビューしながら追究することで多くの情報が収集できるようにし、話し合いの場を設けて情報を比較したり関連付けたりして考えるなど、社会的事象の見方・考え方を働かせる場面が多く設定されるようにする。また、火事の発生件数が減少傾向にあったり火災による被害が抑えられたりしている事実から疑問を持ち、話し合いを通して学習問題を作り上げたり、追究の視点と方法（学習計画）を共有したりするなど問題解決的な学習展開を構成し、子供が前単元までで経験した学習方法を生かせるようにしたい。問題解決のために施設・設備の調査活動を行ったり、消防士の方に聞き取り調査を行ったりしながら必要な情報を集めていく過程で、消防署などの関係機関と地域との協力の意味など、地域の安全を守る働きについて理解を深めるとともに、自分なりの考えをもったり自分にできることを考えたりしながら、「市民性・地域参画力」の資質・能力の育成を目指す。

3. 単元の目標

火事などの災害を防ぐ地域の安全を守る活動について、見学・調査し、消防署などの関係機関に従事している人々の働きや消防団等の地域の人々の働きを捉え、関連付けて考え表現することを通して、関係機関と地域の人々が協力して防災や消火活動に努めていることを理解し、地域や自分自身の安全を守るために日常生活において自分たちにもできることを考え、表現しようとする態度を養う。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 消防施設・設備などの配置、緊急時の備えや対応などについて、消防士にインタビューしたり各種資料で調べたりして、消防署を中心とした関係機関や消防団などの地域の人々の諸活動を理解している。</p> <p>イ 調べたことを表や文にまとめ、関係機関は地域の安全を守るために相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることや地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解している。</p>	<p>ア 消防施設・設備などの配置、緊急時の備えや対応などに着目して問いを見だし、消防署を中心とした関係機関や消防団などの地域の人々の諸活動について考え、表現している。</p> <p>イ 調べたことをもとに、関係機関や地域の人々の働き、相互の協力・連携の意味や役割について比較・分類したり、関連付けたりしながら考え、表現している。</p>	<p>ア 火災から地域の安全を守るための取組について予想や学習計画を立てて、収集した情報を整理し、課題を解決するために必要な資料や情報を集めたり、選んだりして主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。</p> <p>イ 学習したことをもとに、火災から地域や自分の安全を守るために、自分たちにできることを考え実践しようとしている。</p>

5. 単元のデザイン (全10時間)

	○学習活動 ・ 学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1	<p>○火事の怖ろしさについて話し合う</p> <p>○資料から、市内で発生した火災の件数が減少していること・火災による被害が軽減していることをつかむ</p> <p>○資料から疑問に思ったことを出し合い、単元全体の学習問題を作る。</p>	<p>・火事の映像を提示</p> <p>・資料①②を提示し、10年間で火災の発生件数が減少傾向にあることや、火災による被害が軽減していることを捉えられるようにする。</p> <p>資料① 市内で発生した火災の件数とり災者数 (平成22年度と令和2年度)</p> <p>資料② 市内で発生した火災の焼損程度別件数 (平成22年度と令和2年度)</p> <p>※「全焼」「半焼」「ぼや」などの用語については、必要に応じて補足説明する。</p> <p>・資料から、火災をどのように未然に防いだり、被害をおさえたりしているのか疑問をもつことができるようにする。</p>		ア	
<p>【学習問題】 「消防の人たちは、火災からどのようにまちを守っているのだろうか？」</p>					

2	<p>○火災に対する学校の備えについて予想し、学習計画を立てる。</p> <p>「廊下に消火器があるから、先生方が消すのかな？」</p> <p>「非常ベルを押したら、消防車が来てくれると思うよ」</p> <p>「機械で火事を教えてくれるんじゃない？」</p> <p>→校内を調べたり、職員室で聞いてみたりしよう。</p> <p>→消防署の人にも話を聞いてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「もし、学校で火事が発生したらどうなるの？」と発問し、調べるようにする。 ・前時までの学習や自分の生活体験から、火災から身を守るしくみには、どのようなものがあるのについて予想させる。 		ア
3 5	<p>○「火災に対する学校の備え」について調査活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎内の消防設備調べ <ul style="list-style-type: none"> ○非常ベル（発信機） ○感知器（煙，熱） ○受信機 ・火災発生時の通報の調査 <ul style="list-style-type: none"> ○先生方の役割分担 ・火災を消し止めるしくみの調査 <ul style="list-style-type: none"> ○消防車が到着するまで ○学校のまわりの消火栓調査 ・調査でわからなかった疑問を整理し，質問事項を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内の地図に火災を知らせる仕組みや道具の在り処を記録させたり，火災発生時の避難計画を聞き取らせたりして，学校を火災から守るしくみについて捉えられるようにする。 ・校舎内の調査だけでは解決できない課題を整理し，調査方法について話し合わせることで，消防士に聞いてみる必要性に気付かせる。 	ア	
6 8	<p>○消防士へのインタビュー活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事を消し止めるしくみ <ul style="list-style-type: none"> ○119番通報してから，消防車が来るまでどうなっているのか →到着時間，関係諸機関への連絡 ○火事を消し止めるために，どのような訓練をしているのか ○火事を消し止めるために，消防車の設備はどうなっているのか ○消防団との連携について ○調査で収集した情報を整理する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「消防団の人は，どのようなことをしているのだろう？」</p> </div> <p>○消防団について調査活動し，消防団の活動についてまとめる</p> <p>→ロイロノートで提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問については，事前に集約してから答えてもらうようにする。 ・消防士の方からは，「仕事に対する思い」「まずは火事を起こさないこと（防火）」「そのための啓発も大事であること」「消防団と連携している事実のみ」について触れてもらう。 ・消防団に関する必要な資料をロイロノートで送付する。 ・消防団の方のインタビュー内容を提示し，消防団で活動する思いに触れられるようにする。 	イ	3


<p>9 (本時)</p>	<p>○消防士と消防団の共通点や違いについて、前時までに調べてわかったことをもとに整理する。</p> <p>【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防士を消防団が助けているから消火活動ができる。 <p>→消防士も消防団も、地域の安全を守るために活動をしている。</p> <p>【違い】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団は消防士よりもなりやすい 消防団は消防士よりもできることが少ない 消防団の方が地域のことに詳しい <p>○消防団の強み（よさ）について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> できることは少ないけど、消防団がいた方が消火作業をしやすい 地域に詳しいから、すぐに助けたり消防士の人に教えたりできる 地域に住んでいるから、危ないところとかがわかる <p>○消防団について考えたことをノートにふりかえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 消防署と消防団の分布図を提示し、消防団が消防署と消防署の間に置かれていることが捉えられるようにする。 消防士と消防団の違いについて板書で整理する。 消防士との共通点に着目させ、「消防団は本当に必要なのか」を問う。 消防士との違い着目しながら、消防団の強み（よさ）について考えている児童を意図的に取り上げる。 消防団が地域に詳しいことが強みになるのか理由を問う。 		イ
<p>10</p>	<p>○単元を通して調べてきたことをもとに、火災を防ぐために大事なことを考察し、報告文にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調査して整理、分析した情報をもとに、火災を防ぐために自分ができることについて話合う場を設定する。 		イ

6. 本時の目標 (9/10)

調べたことをもとに話し合うことを通して、消防署・消防団・自分たちとのつながりを見いだしながら消防団の価値に気づき、地域の安全を守ることにについて考え、記述することができる。

7. 本時の展開

「目指す子供の姿」を実現するための手立て

教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明) ○子供の学習活動		◆留意点 ※評価															
<p>①前時の学習を振り返り、学習問題を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「消防士と消防団の違いは何か？」</div> <p>②調べたことをもとに、違いを確認する</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="background-color: #cccccc;">消防署</th> <th style="background-color: #cccccc;">消防団</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">数</td> <td style="text-align: center;">9か所</td> <td style="text-align: center;">18分団</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">合格した人のみ (消防のプロ)</td> <td style="text-align: center;">18～55歳の地域の人 (普段は仕事をしている人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">訓練</td> <td style="text-align: center;">毎日</td> <td style="text-align: center;">朝早く・夜遅く ※全員でやるのは年に数回</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">活動</td> <td style="text-align: center;">消火活動 救助活動 防災活動</td> <td style="text-align: center;">消火活動の支援 ・ホースの準備 (消火栓につなぐ) ・交通整理 ・地域の見回り</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※太枠部分は先に提示しておく。</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防士を消防団が助けているから消火活動ができる。 <p>→消防士も消防団も、地域の安全を守るために活動をしている。</p> <p>【違い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団は消防署よりも多いよ ・消防団は消防士よりもなりやすい ・消防団は消防士よりも訓練が少ない ・消防団は消防士とやっていることがちがう ・消防団の方が地域のことに詳しい <p>●「消防団は本当に必要なのかな？」</p> <p>③消防団の強み(よさ)について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防士は、消防団がいた方が消火作業をしやすい ・地域に詳しいから、すぐに助けたり消防士の人に教えたりできる ・地域に住んでいるから、危ないところとかがわかる <p>④本時の学習を振り返り、消防の人がまちの安全を守っていることについて考えたことを記述する。</p> <p>●「消防の人たちは、火災からどのようにまちを守っていると言えそうかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に詳しい消防団のおかげもあって火事が消せる ・自分たちの住んでいるところも消防署と消防団があるから安心できる ・消防団の協力があるから消防士がすぐに消火できる ・消防署も消防団もまちの安全を守っているんだね </div>			消防署	消防団	数	9か所	18分団	人	合格した人のみ (消防のプロ)	18～55歳の地域の人 (普段は仕事をしている人)	訓練	毎日	朝早く・夜遅く ※全員でやるのは年に数回	活動	消火活動 救助活動 防災活動	消火活動の支援 ・ホースの準備 (消火栓につなぐ) ・交通整理 ・地域の見回り	<p>◆留意点 ※評価</p> <p>◆消防団の情報は、前時にロイロノートで送付したものをを用いる。</p>  <p>◆消防署についてわかっている視点に沿って、消防団の情報を板書で整理する。</p> <p>◆消防署と消防団の分布図を提示する。</p> <p>◆消防団の、強み(よさ)について考えている児童を取り上げる。</p> <p>※消防署・消防団・自分の関係を見いだしながら、消防団の必要性について自分の考えをノートに記述している(思・判・表)</p>
	消防署	消防団															
数	9か所	18分団															
人	合格した人のみ (消防のプロ)	18～55歳の地域の人 (普段は仕事をしている人)															
訓練	毎日	朝早く・夜遅く ※全員でやるのは年に数回															
活動	消火活動 救助活動 防災活動	消火活動の支援 ・ホースの準備 (消火栓につなぐ) ・交通整理 ・地域の見回り															

■本時で目指す児童・生徒の姿

今日の授業における「市民性・地域参画力」を高めている姿

本時では、前時まで調べたことをもとに交流し、地域や自分たちの生活に身近な消防団の方の想いや価値に触れながら消防署・消防団・自分たちの関係性を見だし、火災からまちを守っていることについて考え、表現していく姿。

■本時のポイント

今日の授業における「目指す子供の姿」を実現するための手立て 子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す～Ⅱ

- ・本時では、子供が生み出した問いを提示し、問いについて各自が収集した情報をロイロノートで可視化することでお互いの考えを把握したり、適切な場面で教師が取り上げたりすることで、お互いに情報を関連付けながら消防署・消防団・自分たちの関係を見いだしていくことができるようにする。

【共通点】

- ・消防士を消防団が助けているから消火活動ができる。
- 消防士も消防団も、地域の安全を守るために活動をしている。

共通点はわかったけど、消防士と何が違うの？本当に必要なのかな？
(以下のような情報をもつ児童を意図的に取り上げる)



消防団は場所が多いから、すぐに行けると思うよ

消防車だと遠いところがあるかもしれないよ

消防団は訓練している回数は少ないから、ちゃんとできるのか心配だよ

訓練していないわけじゃないよ やることもちがう

消防団の人は、地域の見回りとかもやっている

地域と何か関係があるの？プロの消防士の方がいいのでは？



消防士は、消防団がいた方が消火作業をしやすい

消防団は地域に詳しいから、すぐに助けたり教えたりできる

消防団は地域を見回っているから、危ないところとかがわかる

地域に詳しいって具体的にどういうことかな？
(地域に住む身近な存在だからこそその強みに気付くことができるようにする)



地域の道路に詳しいからすぐに交通整理とかがしやすい

地域の消火栓の場所がすぐにわかるから、すぐに準備できる。

火事が起きる前に、地域の危ないところを消防署に伝えたりもしている

消防の人たちは、火災からどのようにまちを守っていると言えそうかな？



- ・地域に詳しい消防団のおかげもあって火事が消せる
- ・自分たちの住んでいるところも消防署と消防団があるから安心できる
- ・消防団の協力があるから消防士がすぐに消火できる
- ・消防署も消防団もまちの安全を守っているんだね

■ 社会科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

社会科における Ls/Fs 育成のポイントは「市民性・地域参画力」

< 社会科で目指す子供の姿 >

「リーダーシップ・フォロワーシップ」育成のため、社会科においては今年度においても、「市民性・地域参画力」の資質・能力の育成に焦点をあて、研究を進めていく。

社会科における「市民性・地域参画力」の中で、市民性は、本教科の目標にも示されている公民としての資質・能力と同義で示される場合が多い。公民としての資質・能力とは、「よく生きたい、こうありたいと自己実現を図っていく中で、他者とかかわりながら、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度」（内山、2016）と解されており、未来を創り上げるためには、自分たちが生活する身近な地域や社会に参画しようとする態度が欠かせない。よって、市民性は本教科の目標であり、地域参画力は市民性の中に含まれる資質・能力と見做すことができよう。

市民性・地域参画力は、知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を相互作用的に高めていくことで育成されていくものである。附属釧路義務教育学校社会科では、これらの資質・能力を各領域や単元の中でバランスよく育成していく。

社会科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- ① パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する
- ② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで対話的な学びを促す

① 子供が実社会と向き合うことができるようなパフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する

パフォーマンス課題とは、「現実の世界（実社会・実生活）からの挑戦や問題（または模した問題）において、様々な知識や概念、スキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な評価課題」（三藤・西岡、2010）のことである。例えば、歴史的分野の二度の世界大戦と日本の単元において「日本はなぜ戦争の道へと進んでしまったのか、これからの日本や世界はどのような考え方や行動をしていけばよいのか」という評価課題が挙げられる。単元の中核を子供が探究していくためにパフォーマンス課題を単元に組み込むことで、個々バラバラな知識や概念、スキルが関連付けられ総合されて、他の単元の学習へも転移可能な深い理解へと到達することができると考えた。さらに、子供が現実の世界（実社会・実生活）と向き合っていくことで、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度が育まれる効果も期待できる。

② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで対話的な学びを促す

各単元で学習を行うにあたり、資料や自己との対話で得た情報をもとに自分の考えを表現する必要がある。平成 29 年度に実践した本教科の研究では、資料提示の工夫から子供の新たな視点を引き出す教師の働きかけとして 3 点について考察した。その実践と検証を踏まえ、今回は、子供が生み出した問いや予想、立場や根拠などを書き込み、学習効果があると思われる場面で書き込んだ資料を子供に提示することに視点をあてる。立場や思考、根拠を可視化することで、意見の対立や、立場を導く根拠の差異が可視化されて対話を行う子供の姿が引き出されることができるとは思わないかと考える。その際に、他者の立場や根拠が何を重視しているのかに気付き、自己の考えがより明確になる効果が期待できる。実際には、是か非かのように立場が決まっている場合や、追究する視点が示されている場合等によって根拠や理由を問うのか、根拠や理由の下支えとなった視点を問うのかなど分野や単元によって指導方法は変わってくる。子供がそれぞれ調べた視点で考えを述べ合うプロセスの中で、リーダーシップ・フォロワーシップが発揮され、多面的・多角的な考察が可能となるような実践を行っていく。

引用・参考文献

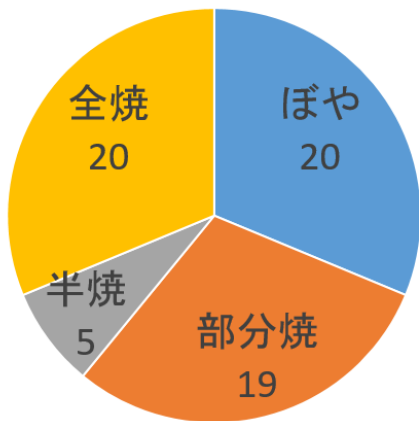
- 1) 内山 隆、「共生への学び」、北樹出版、2016
- 2) 三藤 あさみ・西岡 加名恵、「パフォーマンス評価にどう取り組むか」、日本標準、2010

資料①

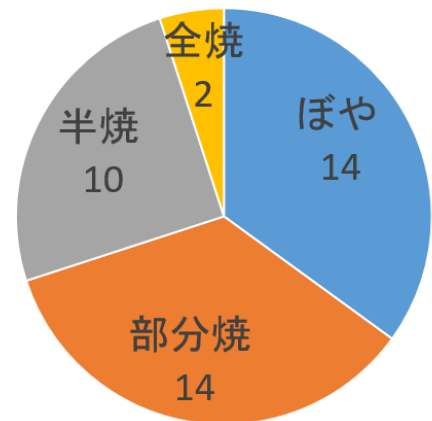
	火災の発生件数	火災でひがいにあった人数
平成22年	84	73
令和2年	57	61

資料②

火災焼損程度別件数(平成22年)



火災焼損程度別件数(令和 2年)



資料③ 釧路市消防本部の消防署・分署・支署・消防団が置かれている場所



資料④ 釧路市消防団 第11分団 団長 七條さんのお話



消防団は、火事や災害などが発生した時に、現場にかけつけます。消防士の方が消火作業をしやすいように、まわりの車や人の誘導をしたり、すぐに消火活動ができるように消火栓にホースをつないだりしています。そのため、地域の消火栓の場所がすぐわかるようにしています。また、地域の見回りをして、どこにどういった方が住んでいるか、燃えやすいものはないかなどを確認し、消防署にほうこくするなどして消防署と協力しています。ふだんは仕事をしているのですが、地域の安全のために20年ほど消防団の活動を続けています。

資料⑤ 児童がもっている資料

別紙 PDF データ参照

引用・参考文献

- 文部科学省 (2018). 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 社会編. 日本文教出版.
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2020). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会 東洋館出版.
- 澤井陽介(2019). 「見方・考え方」を働かせて学ぶ社会科授業モデル3・4年 明治図書.
- 由井蘭健(2019).由井蘭健の「深い学び」をつくる社会科授業3年 東洋館出版.